

目次

イントロダクション

- 01 目次・編集方針
- 02 理念・ビジョン
- 03 コーポレートメッセージ
- 04 カバーストーリー
- 08 CEOメッセージ



1 価値創造ストーリー

- 12 価値創造のあゆみ
- 14 At a glance
- 15 セグメント・製品区分別概況
- 16 価値創造プロセス
- 17 マテリアリティ
- 18 バリューチェーン
- 21 海外展開



2 経営戦略

- 22 エスビー食品グループが目指す未来
- 23 経営戦略2033
- 25 第3次中期経営計画の振り返り
- 26 第4次中期経営計画
- 27 海外事業
- 28 Close Up 海外事業:「うまみトッピング」
- 29 国内事業
- 30 Close Up 国内事業:パウダールウ
- 31 将来に向けた新領域
- 32 CFOメッセージ
- 35 CHROメッセージ
- 37 財務ハイライト
- 38 非財務ハイライト
- 39 事業概況



3 持続的成長を支える基盤

- 43 サステナビリティ
- 44 **E** 環境
- 48 **S** 社会
- 57 **G** コーポレート・ガバナンス
- 60 **G** 役員一覧
- 62 **G** 社外取締役メッセージ
- 63 **G** コンプライアンス/リスクマネジメント



4 データ集

- 65 主要財務指標
- 66 主要非財務指標
- 67 会社情報・株式情報
- 68 グループ事業所一覧



編集方針

本レポートは、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに、エスビー食品グループの中長期的な価値創造に向けた考え方や取組みへの理解を深めていただくことを目的として発行しています。2026年版では、当社グループが目指す未来の実現と2043年の長期目標達成に向けて描く成長の道筋について、経営戦略2033とその実行計画である第4次中期経営計画を軸にご紹介しています。また、価値創造プロセスや事業戦略、研究開発、人材・組織基盤の強化、サステナビリティ、ガバナンスの取組みについて、財務・非財務の両面からお伝えしています。本レポートなどの情報開示を通じて、ステークホルダーの皆さまとの対話を深め、企業価値の向上につなげてまいります。

本レポートと情報開示の位置付け

統合報告書は、法定開示資料、IR・財務情報サイトおよびサステナビリティサイトの情報をつなぎ、価値創造ストーリーを統合的にお伝えする資料です。



見通しに関する注意事項： 本資料に記載されている業績見通しなどの将来に対する記述は、現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因により予想とは異なる可能性があります。

参照したガイドライン： IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」

報告対象期間： 2025年度（2025年4月～2026年3月）
（一部、2026年度の活動を含みます）

報告対象組織： エスビー食品（株）およびグループ会社

発行時期： 報告書発行：2026年10月 次回発行予定：2027年10月
前回発行：2025年10月

理念・ビジョン

創業理念

「美味求真」

お客様に喜んでいただくために、
ただひたすら真っすぐに“本物のおいしさ”を追い求めます。

企業理念

「食卓に、自然としあわせを。」

- 一) 常に研究を怠らず、創意工夫をこらして高い品質と新たな価値を創出します。
- 二) 常にお客様の視点で考え、心から満足していただける製品を追求します。
- 三) 常に自然に感謝し、食卓から幸せな生活と豊かな社会づくりに貢献します。

ビジョン

「地の恵み スパイス&ハーブ」の可能性を追求し、
おいしく、健やかで、明るい未来をカタチにします。

行動規範

- お客様の満足と安心の提供
- お客様にとっての価値の追求
- 国内外での倫理法令遵守の徹底
- 循環型社会への対応
- 地域との共生と社会貢献
- 社員の豊かさと個性の尊重
- 関係諸外国の法令遵守と貢献
- 企業情報の開示
- 経営陣の役割、リーダーシップ

詳細はこちらからご覧ください: [エスビー食品行動規範](#)

そこに、スパイス&ハーブ

S&B

スパイスとハーブには、暮らしを豊かにする力がある。

私たちは長きにわたり、その力を信じ、ひたむきに向き合ってきました。

その尽きぬ可能性を、日本の食卓から世界の食卓へと広げていく。

食においしさを、毎日に健やかさを。

スパイスとハーブの力で、あたらしい明日を、私たちがつくっていきます。

笑顔ある食卓、夢ある暮らしの中に「S & B」がある。

“そこに、スパイス&ハーブ”



Cover Story 1

持続可能な調達への
取り組み

生産者の皆さまとともに 責任ある サプライチェーンの 構築を。

私たちの製品のほぼすべてには、地の恵みであるスパイスとハーブが使われています。豊かな香りとおいしさをこれからも食卓へお届けし続けるために、安全・安心で高品質な原材料の持続可能な調達を実現することは、エスビー食品グループの調達活動の使命です。

調達活動とは、単に原材料を買い付けることではありません。香辛料の専門知識をもったチームが、生産地や原材料への理解を深めながら、製品に最適な品質を追求しています。調達活動において私たちが何よりも大切にしていることは、生産者の皆さまとの対話です。栽培技術の向上や生産地の課題解決にともに取り組み、環境や人権に配慮した活動の支援を通じて、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組んでいます。また、気候変動や農業従事者の減少といった課題の解決に貢献できるよう、産地支援活動にも注力しています。

エスビー食品グループは、自然の恵みに感謝しながら、産地との絆をさらに強めていきます。

詳細はこちらからご覧ください

P.51-53 調達への取り組み／サプライチェーン

Cover Story 2

スパイス&ハーブの
機能の探求

培ってきた 専門知識がもたらす 新たな機能価値を 提案。

食卓に広がる心地よい香りや美しい彩り。それらを織りなすスパイスとハーブには、おいしさだけではなく無限の可能性が秘められています。私たちは、長年培ってきたスパイスやハーブに関する知見と技術を研究開発によって磨き、自然の恵みが人々の暮らしにもたらすさまざまな価値を追求しています。

世界中の人々の健康でしあわせな暮らしに貢献し、「おいしく、健やかで、明るい未来」をカタチにする企業へ。私たちは研究開発と技術のさらなる深化によって、スパイスとハーブの機能を科学的に解明するとともに、食の魅力として暮らしのなかに広げていきます。

詳細はこちらからご覧ください

P.50 スパイス&ハーブに関する科学的価値の創出



Cover Story 3

安全・安心と
おいしさの追求

日々の安心と 豊かな香りを、 確かな品質管理と 製造技術で。

開封した瞬間の、豊かな香りと鮮やかな彩りを大切にお届けするために。私たちエスビー食品グループの工場には、妥協なきものづくりの精神が息づいています。その象徴の一つが、創業期から用いられている伝統的な「スタンプミル製法」です。摩擦熱を抑えるため、杵で丁寧にスパイスを粉砕する独自の技術で、繊細な香り成分の損失を抑えながら、豊かな香りを製品に活かしています。

伝統を貫く一方で、生産現場は常に進化し続けています。国際的な考え方や安全基準を取り入れた独自の「S&B品質保証システム」のもと、精緻かつ柔軟な生産プロセスと厳格な検査体制を確立しています。近年はIoTやAIを活用したスマートファクトリー化を推進し、生産効率の向上と品質の安定化に取り組んでいます。

安全・安心と「本物のおいしさ」で選ばれ続ける製品を。一世紀にわたって磨き続けてきた技術を礎に、私たちは未来のものづくりへと歩みを進めています。

[詳細はこちらからご覧ください](#)

P.49 製品の安全・安心を支える品質保証基盤



Cover Story 4

おいしく健やかな
食卓への貢献

世界の食卓に おいしさと 健やかさを。

笑顔ある食卓、夢ある暮らしの中に「S&B」がある。それが私たちの願いです。

スパイス・ハーブ・カレーを軸にした知見と技術を活かし、香辛調味料や即席ルウ、レトルト食品など、お客さまのライフスタイルやニーズに対応した約3,000品目もの多彩な製品を、家庭やプロの厨房、そして世界各地の食卓へお届けしています。エスビー食品グループは、お客さまを起点に、忙しい時でも時短・簡便調理で本格的な味が楽しめる製品の提案や、香辛料がもつさまざまな価値に着目した製品・情報・サービスの提供を強化しています。また、店頭やコミュニティサイト、SNSなどを通じて、お客さまとともにスパイスやハーブの楽しい使い方や食卓を豊かにするレシピを共有する輪を広げています。

『食卓に、自然としあわせを。』日本で初めて国産カレー粉の製造に成功して100年あまり。私たちが描き続ける「おいしく、健やかで、明るい未来」への物語は、これからも続いていきます。

詳細はこちらからご覧ください P.12 価値創造のあゆみ



CEOメッセージ

スパイス&ハーブの価値とその可能性を
新たな領域へ、世界へと広げてまいります。

代表取締役社長 Chief Executive Officer[CEO]

大久 陽子

持続的な成長への挑戦

2026年6月に、エスビー食品の代表取締役社長に就任いたしました。この場をお借りして、当社を長年支えてくださっているお客さま、お取引先さま、株主の皆さまをはじめ、すべてのステークホルダーの皆さまにご挨拶申し上げます。

2026年度は、「経営戦略2033(P.22)」およびその実現に向けた「第4次中期経営計画(P.26)」をスタートする、節目の年となります。長期目標である「売上高2,000億円超・海外売上高比率40%超」を見据え、持続的な成長への挑戦に責任をもって取り組んでまいります。

日々成長を積み重ねて

私は1993年の入社以来、約19年にわたり製品開発に携わりました。「ものづくりがしたい」という思いで入社した私にとって、製品をかたちにしていく仕事には、大きなやりがいがありました。ところがある日、「お客様相談センター」への異動辞令を受けます。思い入れの深かった業務から離れることに、戸惑いもありました。しかし新たな職場では、「家族で毎日使っています」「カレーは『S&B』と決めています」といったお客さまの声に直接触れる機会に恵まれました。自分関わってきた製品が日々の食卓を支えていると

いう実感は、新たなやりがいをもたらし、お客様価値への気づきや理解を深めることにつながりました。この経験は、現在の私の経営の考え方につながる大切な原点となっています。

その後は、広報部門、ダイバーシティ推進室、マーケティング企画室、さらに中央研究所など、さまざまな部門で新たな役割を担ってきました。いずれも未経験の領域であり、自信を失いかけたこともありましたが、それでも、日々わずかでも成長できたことや、昨日よりもできることが増えた実感を励みに、小さな達成感を積み重ねてきました。そうした積み重ねが、不安を自信へと変え、次の挑戦へとつながってきたのだと思います。

社長就任にあたって、この思いは変わりません。企業理念「食卓に、自然としあわせを。」と、ビジョン「『地の恵み スパイス&ハーブ』の可能性を追求し、おいしく、健やかで、明るい未来をカタチにします。」のもと、ステークホルダーの皆さまとともに、一步一步、着実に挑戦を重ね、エスビー食品グループの未来を築いていきます。

「お客様価値の最大化」を目指して

当社の創業理念「美味求真」には、お客さまに喜んでいただくために、ただひたすらに本物のおいしさを追い求める、という想いが込められています。この姿勢は創業以来受け継がれ、私たちの事業活動の原点であり続けています。この創業理念と、私自身がこれまで積み重ねてきた経験を踏まえ、エスビー食品グループの基本方針として掲げたのが「お客様価値の最大化」です。

この「お客様価値」とは、お客さまが感じる「おいしさ」「健やかさ」「手軽さ」「楽しさ」といった日々の食シーンで生まれる、身近で確

かな価値のことです。この価値を最大化するうえで重要なのは、当社が長年にわたり培ってきた「スパイス・ハーブ・カレーを軸とした知見と技術」と、これから進化させていく新たな技術です。お客さまが求める価値と当社固有の知見・技術を掛け合わせることで、お客様価値の最大化を実現し、当社ならではの強みを発揮しながら、お客さまから選ばれる企業を目指していきます。

経営戦略2033と将来のありたい姿

おいしく、健やかで、明るい未来を実現するために、議論を重ねて描き上げた道筋が経営戦略2033です。テーマに掲げた「スパイス&ハーブの価値で食の世界を変える」は、スパイスとハーブの新たな価値を創出し、お客さまに届けていくという意味を示すものです。

私は、創業者が肌感覚で捉えていた「おいしさ」を科学的に裏付けることで、その価値がさらに高まると考えています。スパイスとハーブの香りや調理における動き、健康への機能性などを科学的に解明し、新たな価値として届けていくことは、私たちの重要な役割といえます。

こうした考えのもと、当社はスパイスとハーブを「調味料」から「新たな機能素材」へと拡張・進化させていきます。「毎日の食卓でスパイスやハーブを使っていたら、いつのまにか健康になっていた」。そのように感じていただける世界を実現したいと考えています。

厚生労働省の公表データによると、日本人の平均寿命と健康寿命の差は、男性は約8.5歳、女性は約11.6歳あるとされています。これは社会課題であり、私たちが正面から向き合うべきテーマだと考



えています。当社の中央研究所では、にんにくの摂取頻度とロコモティブシンドロームとの関連性、クミンの認知機能への作用など、スパイスやハーブの健康機能を科学的に解明する研究を外部の大学や研究機関と連携しながら進めてきました。こうした知見や技術力を活かし、スパイスとハーブを、お客さまの健やかな生活を支える存在として社会への浸透・定着に努めてまいります。

3つのGrowthで持続的な成長を目指す

「経営戦略2033」をどのように実行し、成長につなげていくかを示したものが「3つのGrowth」です(P.24)。

「Grow the Core」では、研究開発・技術の深化を通じてスパイス・ハーブ・カレーを軸とした香り・おいしさ・健康機能を科学的

に解明し、新たな競争力の核を創出していきます。「Grow the Business」では、国内事業の着実な成長に加えて、海外事業の拡大を図り、事業規模と収益を伸ばしていきます。そして「Grow the Value」では、「Grow the Core」で生み出した技術や知見を、「製品」のほか、使い方の提案などの「情報」や食の「体験」として提供し、お客さまの選び方や使い方を変え、新たな需要や市場を創造していきます。

これら3つのGrowthは相互に連動し、循環しながら持続的な成長を生み出すものです。この循環を支える工場・設備やサプライチェーン、組織・人財、財務の基盤も継続的に強化していきます。

第4次中期経営計画のスタート

本年度よりスタートした第4次中期経営計画は、経営戦略2033の実現に向けた「価値を創造し続けるための体制構築」をテーマに掲げています。「創造し続ける」という言葉は、第3次中期経営計画が次の成長への土台を築いた3年間であったという総括を踏まえたものです。

第3次中期経営計画では、原材料価格の上昇や人手不足が続く厳しい市場環境のなか、価格改定の実施や高付加価値製品の販売強化、海外事業の拡大などに取り組みました。その結果、2026年3月期は売上・利益ともに計画を大きく上回り、営業利益・経常利益・当期純利益はいずれも過去最高を更新するなど、確かな成果を上げることができました。

これまで当社グループは、構造改革や収益基盤の強化に着実に取り組んできました。私は、そうした取組みを土台として第3次中期

経営計画を推進したことが、安定した収益・財務基盤に結実し、次の成長に向けた投資に踏み出せる状態につながっていると捉えています。

第4次中期経営計画では、新たな収益の柱づくりに取り組むと同時に、成長エンジンである海外事業をさらに伸長させていくために、「強みを伸ばす」「成長を支える」「効率を高める」「基盤を固める」の4つの重点戦略(P.26)を推進していきます。そして最終年度の2029年3月期には、売上高1,420億円、営業利益120億円、営業利益率8.5%、海外売上高比率14.8%、ROEは8.0%を最低水準として、8.0%超を目指します。

キャッシュアロケーション(P.33)でお示ししているとおり、当社グループは新たな価値創造に向けた積極的な成長投資を計画しています。これに伴う減価償却費の増加により、財務目標達成の難易度は高まりますが、当社グループが次の成長ステージへ進むために、全社一丸となって達成すべき目標だと考えています。



国内事業 | 選択と集中、新領域の開拓

国内市場は、少子高齢化や人口減少に加え、競争環境の変化も続いています。こうしたなかで成長を続けていくためには、人財や資金、時間などの限られた経営資源を適切に配分していくことが重要だと考えています。当社グループは、家庭用、業務用、EC専用、輸出専用、フレッシュハーブなど、幅広い製品を展開しており、その数は約3,000品目にのぼります。今後は、高付加価値製品や当社グループの強みを活かした製品を中心にポートフォリオの最適化を進め、収益性の向上を図っていきます。一方で、国内市場の変化を踏まえると、既存事業の延長だけでは持続的な成長が難しくなりつつあります。そのため、健康を軸とした機能素材の開発など新領域に取り組み、新たな事業の創出につなげることが重要だと考えています。

海外事業 | 現地の食文化と融合させながら、日本食を世界へ

当社グループでは、海外事業を中長期の成長に向けた最重要領域と位置付けています。各国の食文化と融合する製品や提案を広げながら、市場の拡大に取り組めます。北米では、日本式カレーや調味料の取扱いが広がり、アジア系スーパーに加え、現地の小売店へと販路が拡大しています。また、輸出専用具入りラー油である「うまみトッピング」も売上を大きく伸ばすなど、これまでの取組みの成果が着実に表れています。

こうした北米市場での成長に加え、海外事業における成長基盤の強化に向けて、ハラル認証対応製品など、現地ニーズに応える製品の供給体制を強化するため、2027年度にタイの新工場の稼働を予定しています。



持続的な成長を支える 人的資本とサステナビリティへの取り組み

当社グループは、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて、マテリアリティを特定し、各種取り組みを進めています。なかでも、企業の成長を支える「人財」と、事業の継続性に深く関わる「持続可能な調達・環境対応」、そしてサプライチェーン全体での人権尊重は、当社にとって重要なテーマです。

企業の成長を支える「人財」

企業の持続的な成長を支えるのは、社員一人ひとりの成長の積み重ねです。一人ひとりが力を伸ばし、活躍できる環境をつくることは、経営者として最も大切な仕事のひとつだと私は考えています。

私は以前、ダイバーシティ推進室の業務に携わった際に多くの社員

と対話を重ねました。そのなかで実感したのは、異なる特徴をもつスパイスやハーブが、組み合わせによって新たな奥行きのある風味を生み出すように、社員一人ひとりの多様な個性や経験は、組織の可能性を広げ、新たな発想や成果を生み出す力になるということです。

一人ひとりがその力を発揮するためには、自発的に新しいことに挑戦できる環境や、安心して自分の考えや意見を交わし合える企業風土が必要です。こうした考えのもと、私はCHROとともに各拠点を回り、社員との対話を重ねています。社員の考えや課題を直接知ること、今後の組織づくりを考えるうえで欠かせないことだと感じています。

当社は、「Let's grow together!」〜共に成長し、明るい未来をカタチにしよう!〜を社内スローガンに掲げています。この言葉には、一人ひとりの成長と会社の成長を重ね合わせ、ともにお客さまに満足いただけるものを創り続けていきたいという思いを込めています。これからも対話の機会を大切にしながら、一人ひとりが力を発揮できる環境づくりに取り組んでいきます。

事業の持続可能性を高めるサステナビリティの取り組み

地の恵みであるスパイスとハーブを事業の核とし、原料の多くを海外の産地から輸入している私たちにとって、原料産地との関係構築と安定調達の確保は、事業の継続性に関わる重要な課題です。気候変動や国際情勢の変化などにより、原料調達を取り巻く環境の不確実性が高まるなか、産地との協働や調達基盤の強化に継続して取り組んでいます。

当社では、国内外の香辛料産地への支援や契約栽培の拡大、各種認証に対応した原料の調達などを進めるとともに、産地との対話を重ねながら、安定的かつ持続可能な調達体制の構築に取り組んでいます。(P.51)

加えて、事業活動に伴う環境負荷低減に向けて、容器包装の見直

しや家庭用レトルト製品のレンジ対応化によるCO₂排出量削減、アップサイクル製品の開発などにも引き続き取り組んでまいります。

人権については、私たちの事業活動が人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、「エスビー食品グループ人権方針」に則して、関わるすべての人々の人権尊重に継続して取り組んでまいります。

今後も、産地との共生、安定調達、研究開発および人権尊重の取り組みを一体的に進めることで事業基盤の強化を図り、お客さまに価値ある製品を安定的にお届けできる企業であり続けたいと考えています。

スパイス&ハーブの価値で食の世界を変える

経営戦略2033と第4次中期経営計画を着実に実行していくためには、成長投資の質とスピードを高めていくことが不可欠です。その中核を担うのが、CEO・CFO・CHROからなる新たなCxO体制です。これは、2024年の監査等委員会設置会社への移行をはじめとするガバナンス強化の流れを踏まえた、経営と執行の意思決定・実行力を一段と高めるための体制です。この体制のもと、連携を密に図りながら成長戦略を推進するとともに、リスクマネジメントの強化にも取り組み、機動的かつ一体的に戦略を遂行してまいります。

100年を超える歴史のなかで、私たちは「美味求真」の精神のもと、スパイスとハーブの可能性を磨き続けてきました。これからの100年は、その可能性を、おいしさ、健康、多様な食文化、そして地球との共生へと広がっていきます。「スパイス&ハーブの価値で食の世界を変える」ための新たな挑戦を、ステークホルダーの皆さまとともに進めてまいります。